

Title	学会発表
Sub Title	
Author	
Publisher	共立薬科大学
Publication year	1999
Jtitle	共立薬科大学研究年報 (The annual report of the Kyoritsu College of Pharmacy). No.44 (1999.) ,p.50- 68
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Technical Report
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00062898-00000044-0050

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学 会 発 表

Ohtsuka I, Hada N, Takeda T. Synthetic studies on glycosphingolipids from the millipede, *Parafontaria laminata armigera* XV International Symposium on Glycoconjugates p163 1999. 8

権田良子, 高橋裕美, 竹田忠紘, 秋山敏行. タイ産生薬 *Anaxagorea luzonensis* の成分研究 (2). 日本生薬学会第46回年会, 講演要旨集P125, 1999.9

荻野朋子, 羽田紀康, 竹田忠紘, 山田陽城. 抗潰瘍活性を有する柴胡多糖体のモデル化合物の合成. 日本生薬学会第46回年会, 講演要旨集P126, 1999.9

成川佑次, 清水訓子, 竹田忠紘. アフリカ産薬用植物 *Leonotis nepetaefolia* の成分研究 (2). 日本生薬学会第46回年会, 講演要旨集P127, 1999.9

黄静, 荻原幸夫, 張浩, 清水訓子, 竹田忠紘. 四川省産薬用植物 *Ardisia mamillata* の成分研究 (2). 日本生薬学会第46回年会, 講演要旨集P148, 1999.9

羽田紀康, 佐藤孝治, 大月玲子, 竹田忠紘, 杉田陸海. 無脊椎動物由来糖脂質の合成研究 (5) フトミミズ *Pheretima hilgendorfi* 由来の糖脂質 (2). 日本薬学会第120年会, 岐阜, 講演要旨集2p70, 2000. 3

羽田紀康, 黒田繭子, 竹田忠紘. 無脊椎動物由来糖脂質の合成研究 (6) マンソン裂頭条虫 *Spirometra erinacei* 由来の糖脂質. 日本薬学会第120年会, 岐阜, 講演要旨集2p70, 2000. 3

大塚功, 羽田紀康, 小林礼奈, 竹田忠紘, 杉田陸海. 無脊椎動物由来糖脂質の合成研究 (7) 節足動物由来 *Arthro* 系列由来の糖脂質. 日本薬学会第120年会, 岐阜, 講演要旨集2p70, 2000. 3

荻野朋子, 羽田紀康, 北村英子, 竹田忠紘, 山田陽城. 柴胡由来ペクチン様多糖のモデル化合物の合成. 日本薬学会第120年会, 岐阜, 講演要旨集2p70, 2000. 3

黒田恵理香, 島田江梨子, 田村悦臣, 竹田忠紘, 本多利雄. 天然物由来色素化合物によるマウス小腸フェノール硫酸転位酵素の阻害. 日本薬学会第120年会, 岐阜, 講演要旨集2p76, 2000. 3

成川佑次, 荒井裕美子, 河合菜央子, 竹田忠紘, 飯沼宗和. インド産薬用植物 *Andrographis paniculata* の成分研究. 日本薬学会第120年会, 岐阜, 講演要旨集2p125, 2000. 3

黄静, 荻原幸夫, 市川雅崇, 清水訓子, 竹田忠紘, 秋山敏行. *Ilex latifolia* の成分検索. 日本薬学会第120年会, 岐阜, 講演要旨集2p125, 2000.3

角田 正, 井村知弘, 酒井秀樹, 横山祥子, 阿部正彦. リポソームの膜物性に及ぼすタンパク質の吸着の影響. 第 38 回 油化学討論会, 名古屋, (講演要旨集 p. 26) 1999. 10

井村知弘, 山内仁史, 横山祥子, 酒井秀樹, 阿部正彦. 脂質二分子膜および単分子膜中におけるセラミド脂質とリン脂質の相互作用 —原子間力顕微鏡および透過型電子顕微鏡による検討—. 1999 年度 材料技術研究討論会, 千葉, (講演要旨集 pp. 135-136) 1999. 12

菅田節朗. 非線形等温線に基づくクロマトグラフィーのシミュレーション (3). 化学ソフトウェア学会年会 '99 研究討論会, 国立, (発表要旨集 pp. 62-63) 1999. 10

吉原麗子, 吉山友二, 菅家甫子, 小杉隆祥, 大林雅彦, 黒川實. タクロリムス体内動態に及ぼす制酸剤の影響. 第16回日本TDM学会・学術大会, 横浜, (要旨集 p99) 1999. 6

Yoshiyama Y, Yazaki T, Kanke M, Beauchamp D. Nephrotoxicity of teicoplanin in rats. 21st International Congress of Chemotherapy, Birmingham, U.K. Abstract p69 1999. 7

Yoshiyama Y, Yazaki T, Kanke M, Beauchamp D. Chrononephrotoxicity of teicoplanin administered with gentamicin in rats. 8th International Conference of Chronopharmacology and Chronotherapeutics, Williamsburg, U.S.A. Abstract p115 1999.8

Ohdo S, Koyanagi S, Yukawa E, Higuchi S, **Yoshiyama Y**, Nakano S, Ogawa N. Chronopharmacology of interferon- α in mice. 8th International Conference of Chronopharmacology and Chronotherapeutics, Williamsburg, U.S.A. Abstract p81 1999. 8

Ogawa N, Ohdo S, Yukawa E, Higuchi S, **Yoshiyama Y**, Nakano S. Chronopharmacology of granulocyte colony-stimulating factor in mice. 8th International Conference of Chronopharmacology and Chronotherapeutics, Williamsburg, U.S.A. Abstract p80 1999.8

菅家甫子. 最近の米国薬学事情：医療薬学教育を中心に. 日本学会会議医療薬学研究連絡委員会, 東京 1999.9

吉山友二, 原愛, 菅家甫子, 朝井慶. 新規超音波ネブライザーにおけるステロイド懸濁液の噴霧および薬剤安定性. 第23回日本医用エアロゾル研究会, 岡山 (抄録集 p6) 1999.9

菅家甫子. アメリカ薬剤師の最近の動き. 長崎大学薬学部学術講演会, 長崎 1999.9

吉山友二, 菅家甫子. マルチメディアを活用した臨床薬剤師養成に係わる医療機関および大学間相互連携の構築に関する研究. 第9回日本病院薬学会年会, 札幌 (講演要旨集 p289) 1999.9

吉山友二. 生体リズムとTDM：薬物動態学の立場から. 第9回日本臨床精神神経薬理学会 (ワークショップ), 大分 (抄録集 p47) 1999.10

Yoshiyama Y, Yoshihara R, Kosugi T, Obayashi M, Kurokawa M, Kanke M. Effect of ganciclovir on the pharmacokinetics of tacrolimus in rats. International Conference on Drug Interaction 1999, Hamamatsu, Japan Abstract p47 1999.10

Sugiyama T, **Yoshiyama Y**, Shimada H, Tsuchimoto K, **Kanke M**. Screening method for drug-drug interactions using chick embryonic electrocardiograms. International Conference on Drug Interaction 1999, Hamamatsu, Japan Abstract p49 1999.10

朝井慶, 荒井真人, 寺田隆雄, **吉山友二**. 新型超音波ネブライザーにおけるステロイド懸濁液の噴霧特性. 第11回薬物吸入療法研究会, 東京 (抄録集 p8) 1999.10

赤峰由子, 宮澤 宏, 福原守雄, 柴崎敏昭, 菅家甫子. 高脂血症患者におけるfluvastatin投与による症状の改善とCYP2C発現性との関連. 日本薬学会第120年会, 岐阜 (講演要旨集4 p8) 2000.3

藏内恭子, 菅家甫子, 西澤健司, 平野公晟. 重症頭部外傷患者におけるアミカシンの薬物動態の予測. 日本薬学会第120年会, 岐阜 (講演要旨集4 p64) 2000.3.

明島 司, 田中昌代, 小宅 正, 菅家甫子. ジゴキシン副作用出現因子と臨床における至適投与量の検討. 日本薬学会第120N会, 岐阜 (講演要旨集4 p70) 2000.3.

飛鳥井佳世, 田中昌代, 小宅 正, 菅家甫子. 気管支喘息患者におけるテオフィリン薬物動態に影響を及ぼす因子の検討. 日本薬学会第120年会, 岐阜 (講演要旨集4 p71) 2000.3.

鈴木直子, 三澤雅子, 阿部芳廣, 庄子知子, 菅家甫子, 秋山 修, 小高雅信. 死亡前喘鳴の軽減を目的とした塩酸ピレンゼピンの投与方法と有用性の検討. 日本薬学会第120年会, 岐阜 (講演要旨集4 p80) 2000.3.

吉山友二, 根岸靖美, 西野真紀, 上原千穂, 矢崎知子, 菅家甫子, 朝井慶, 荒井真人, 寺田隆雄. 新型超音波ネブライザーにおけるステロイド懸濁液の噴霧特性および薬剤安定性. 日本薬学会第120年会, 岐阜 (講演要旨集4 p89) 2000.3.

吉山友二. 時間薬物治療の実践: 生体リズムと薬物治療. 日本薬学会第120年会 (ワークショップ), 岐阜 (講演要旨集1 p181-182) 2000.3

藤井健志, 川島紘一郎: TおよびBリンパ球におけるムスカリン受容体刺激によるカルシウムシグナルと転写調節因子活性化. 日本生化学会関東支部会シンポジウム「Gタンパク質共役受容体: 最近の話題」, 1999年4月10日, 東京都

松爲万利佳, 藤井健志, 藤本和子, 川島紘一郎: 高血圧自然発症ラット (SHR) における免疫調節候補物質アセチルコリン (ACh) の加齢による変化. 第100回日本薬理学会関東支部会, 1999年6月5日, 神奈川県, 発表要旨集C-9 (p60)

原田浩行, 藤井健志, 川島紘一郎 : 酢酸腹腔内投与による痛み刺激のラット大脳皮質および海馬におけるアセチルコリン (ACh) 遊離に及ぼす影響. 第100回日本薬理学会関東部会, 1999年6月5日, 神奈川県, 発表要旨集A-4 (p23)

藤井健志, 川島紘一郎 : ヒトリンパ球におけるムスカリン受容体を介するc-fos遺伝子発現. 第22回日本神経科学学会, 1999年7月6日, 大阪府, Neurosci Res 23 (Suppl), S132

鈴木岳之, 高儀良一, 平田 三保子, 中村 健, 工藤佳久, 川島紘一郎 : 中隔野・海馬細胞共培養条件下におけるアセチルコリン遊離能の検討. 第22回日本神経科学学会, 1999年7月6日, 大阪府, Neurosci Res 23 (Suppl), S162

藤井健志, 松為万利佳, 細沼和代, 牛山直樹, 藤本和子, 川島紘一郎 : 高血圧自然発症ラットにおける免疫機能障害とリンパ系コリン作動システム活性の低下. 第35回高血圧自然発症ラット学会学術集会, 1999年8月27日, 北海道, 発表要旨集P-17 (p85)

Kawashima K, Sato ZK, Fujii T, Watanabe Y, Yamada S, Ando T, Fujimoto K: Expression of mRNA for neuronal nicotinic acetylcholine receptor subunits in human mononuclear leukocytes. 13th European Society for Neurochemistry, Munchen, J Neurochem 73 (Suppl) S142B, 1999

藤井健志, 川島紘一郎 : セロトニン神経系を介する中枢コリン作動性神経活性の調節機構. 第10回高次脳機能障害シンポジウム, 1999年9月14日, 東京, 要旨集p57 - 60

藤井健志, 川島紘一郎 : ヒトTおよびBリンパ球におけるM3ムスカリン受容体サブタイプ刺激を介するc-fos遺伝子発現. 第101回日本薬理学会関東部会, 1999年10月2日, 東京, 発表要旨集B-16 (p53)

安藤剛, 藤井健志, 川島紘一郎 : リンパ球におけるアセチルコリンエステラーゼタンパク質の発現. 第101回日本薬理学会関東部会, 1999年10月2日, 東京, 発表要旨集B-15 (p52)

Fujii T, Kawashima K: Cholinergic system in lymphocytes. 第73回日本薬理学会年会, 横浜, Japan J Pharmacol 82 (Suppl I): 28 P(S17-2), 2000.3

Sakuragawa N, **Fujii T, Kawashima K**: Synthesis and release of acetylcholine by cultured human amniotic epithelial cells: Presence of acetylcholine in amniotic fluid and amniotic fluid cells.第73回日本薬理学会年会, 横浜, Japan J Pharmacol 82 (Suppl I), 28P(S17-5), 2000.3

Fujii T, Kawashima K: YM905, a novel M3 muscarinic receptor antagonist, reduces Ca^{2+} signaling and c-fos gene expression in human leukemic T-cell lines. 第73回日本薬理学会年会, 横浜, Japan J Pharmacol 82 (Suppl I), 49P (O-29), 2000.3

Kita A, Koizumi S, Tsuda M, Ueno S, Ogata T, Kawashima K, Inoue K: Mechanisms underlying inhibition by ATP of glutamatergic transmission in cultured rat hippocampal neurones. 第73回日本薬理学会年会, 横浜, Japan J Pharmacol 82 (Suppl I), P (O-277), 2000.3

Morita-Murase Y, Homma Y. A study of air luminescence for accurate liquid scintillation counting of low-level radionuclides and the use of air luminescence for calibrating detectors to measure Rn-222. 3rd International Conference on Isotopes, Vancouver, Canada,(Abstract D2.3) 1999.9

本間義夫, 村瀬裕子. 液体シンチレーションスペクトロメータのゼロしきい値への外挿による軟 β 放射体の絶対測定. 43回放射化学討論会, つくば, (発表要旨集 p211) 1999.10

村瀬裕子, 本間義夫. α 放射体の液体シンチレーション測定における空気ルミネッセンスの影響.43回放射化学討論会, つくば, (発表要旨集 p140) 1999.10

大原久美子, 森田裕子, 村上勲, 本間義夫. SODの酵素活性と含有金属量の相関について. 第8回原子力研究総合センターシンポジウム, 東京, 1999.12

村上勲, 志村美奈, 森田裕子, 吉沢幸夫, 本間義夫. ラットのsuperoxide dismutase活性に及ぼすX線照射効果について. 日本原子力学会2000年春の年会, 松山, (発表要旨集1) p234 2000.3

Kawamura K, Ishiwata K, Tajima H, Ishii S, Shimada Y, Matsuno K, Homma Y, Sennda M. ¹¹C-labeling of SA6298 and in vivo evaluation as a PET signal receptor ligand. 13th Int. Symposium on Radiopharmaceutical Chemistry, St. Louis, USA. (Abstract s363) 1999.5

河村和紀, 本間義夫, 石渡喜一, 石井信一, 千田道雄, 田島久嗣, 松野聖. 脳PET診断用薬剤としての2つのピペラジン誘導体シグマ1受容体リガンドの合成とin vivo評価. 36回理工学における同位元素研究発表会, 東京, (発表要旨集 p113) 1999.7

河村和紀, 石渡喜一, 田島久嗣, 石井信一, 松野聖, 本間義夫, 千田道雄. 脂溶性の異なる3つのC-11標識ピペラジン型シグマ受容体リガンドのin vivo脳受容体結合. 日本薬学会第120年会, 岐阜, (発表要旨集3) p142 2000.3

阿部芳廣, 田原佳代子, 庄子知子, 西澤秀幸. ムービング・ベッド クロマトグラフの開発研究. 第3回分析化学会東京シンポジウム, 幕張, (発表要旨集p213) 1999.9

阿部芳廣, 庄子知子, 松原麻実子, 吉田みどり. ウシ血清アルブミンのノルロイシン誘導体に対する光学選択的な結合について. 日本薬学会第120年会, 岐阜, (発表要旨集v3,p91) 2000.3

田原佳代子, 阿部芳廣, 福田真紀子. C2軸不斉を有する光学活性固定相の研究. 日本薬学会第120年会, 岐阜, (発表要旨集v3,p92) 2000.3

鈴木直子, 三澤雅子, 阿部芳廣, 庄子知子, 菅家甫子, 秋山修, 小高雅信. 死亡前喘鳴の軽減を目的とした塩酸ピレンゼピンの投与方法と有用性の検討. 日本薬学会第120年会, 岐阜, (発表要旨集v4,p80) 2000.3

石川さと子, 望月正隆. p53タンパク発現を指標とした二官能性ニトロサミンの制がん性スクリーニング. 日本癌学会第58回総会, 総会記事p697 1999.10

稲見圭子, 望月正隆. シトクロムP450化学モデル系を用いた芳香族アミンの活性化機構. 日本癌学会第58回総会, 総会記事p411 1999.9

稲見圭子, 望月正隆. ポルフィリンモデルによる芳香族アミンの活性化機構. 日本薬学会関東支部大会第43回大会, 要旨集p36 1999.10

滝川靖, 斎藤直美, 王力青, 増野匡彦, 望月正隆. アスコルビン酸類縁体の抗酸化活性およびキサンチンオキシダーゼ阻害活性の検討. 日本薬学会関東支部大会第43回大会, 要旨集p38 1999.10

三浦基文, 河西菜穂子, 増野匡彦, 望月正隆. *N*-ニトロソジアルキルアミンと活性酸素種との反応による直接変異原物質の生成. 日本薬学会関東支部大会第43回大会, 要旨集p39 1999.10

増野匡彦, 滝川靖, 斎藤直美, 王力青, 望月正隆. キサンチンオキシダーゼ阻害活性を有するアスコルビン酸類縁体の開発. 第19回メディスナルケミストリーシンポジウム, 要旨集p77-78 1999.11

原猛哲, 望月美妃子, 花田卓, 金光まひな, 望月正隆. ビスハロメチル置換複素環のDNAクロスリンク結合性と環窒素の寄与. 第30回複素環化学討論会, 要旨集p188-191 1999.11

石川さと子, 田島めぐみ, 望月正隆. 新規インターカレートークロスリンク剤のDNA傷害性. 日本環境変異原学会第28回大会, 要旨集p143 1999.12

稲見圭子, 望月正隆. ポリフィリンモデルによるアミノフルオレン類の*N*-水酸化と環水酸化. 日本環境変異原学会第28回大会, 要旨集p122 1999.12

高桑直子, 村松由起子, 望月正隆. 酢酸塩による*N*-ニトロソアルキル尿素の変異原性抑制効果とDNA修復. 日本環境変異原学会第28回大会, 要旨集p115 1999.12

須藤鎮世, 三井洋司, 王力青, 高田雅史, 望月正隆. マウス小核試験を利用したglucopyranosyl vanillinとvanillinの抗変異原性. 日本環境変異原学会第28回大会, 要旨集p116 1999.12

増野匡彦, 望月正隆. Inhibitory effect of fullerene derivatives on flavoenzymes. 第2回科学技術交流セミナー, 2000.1

薄井典子, 奥田健介, 廣田喬, 廣部雅昭, 望月正隆, 増野匡彦. フラーレン誘導体による大腸菌生育阻害と呼吸鎖阻害. 第18回フラーレン総合シンポジウム, 要旨集p72 2000.1

増野匡彦, 滝川靖, 斎藤直美, 望月正隆. Ascorbic acidとその類縁体reductic acidの酸素分子活性化能の比較. 日本薬学会第120年会, 講演要旨集2-p127 2000.3

石川さと子, 西海石睦, 望月正隆. 制がん性を目指した新規インターカレート-クロスリンク剤によるp53タンパク質発現とアポトーシス誘導. 日本薬学会第120年会, 講演要旨集4-p144 2000.3

稲見圭子, 望月正隆. ポルフィリンモデルによる芳香族アミンの*N*-水酸化. 日本薬学会第120年会, 講演要旨集2-p174 2000.3

高桑直子, 村松由起子, 石川さと子, 望月正隆. 酢酸塩による*N*-ニトロソアルキル尿素の変異原性抑制機構. 日本薬学会第120年会, 講演要旨集4-p144 2000.3

原猛哲, 関真美, 望月正隆. 二官能基性ベンゾジアジン複素環によるDNAクロスリンク活性と環窒素の寄与. 日本薬学会第120年会, 講演要旨集2-p173 2000.3

薄井典子, 渡辺麻子, 奥田健介, 廣田喬, 長野哲雄, 廣部雅昭, 望月正隆, 増野匡彦. フラーレン誘導体のミトコンドリア呼吸鎖への影響. 日本薬学会第120年会, 講演要旨集2-p141 2000.3

滝川靖, 増野匡彦, 斎藤直美, 真木敦子, 望月正隆. キサンチンオキシダーゼ阻害活性と抗酸化活性を併せ持つアスコルビン酸類縁体の開発. 日本薬学会第120年会, 講演要旨集2-p128 2000.3

三浦基文, 栗原直美, 河西菜穂子, 稲見圭子, 増野匡彦, 望月正隆. *N*-ニトロソ-*N*-メチルペンチルアミンとその誘導体のFenton試薬処理による直接変異原の生成. 日本薬学会第120年会, 講演要旨集2-p174 2000.3

望月美妃子, 鈴木久美子, 増野匡彦, 望月正隆. 二官能基性proflavine誘導体のDNAクロスリンク活性とDNAインターカレート活性の検討. 日本薬学会第120年会, 講演要旨集2-p174 2000.3

奥田健介, 廣田喬, 長野哲雄, 廣部雅昭, **望月正隆**, **増野匡彦**. フラーレン誘導体のグルコースオキシダーゼ阻害活性. 日本薬学会第120年会, 講演要旨集2-p141 2000.3

小島啓子, 山形真一, **稲見圭子**, 渡部さえ子, 徳田篤志, 望月眞弓, **望月正隆**, 上田志朗. ダカルバジンの変異原性に対する薬物代謝能の影響. 日本薬学会第120年会, 講演要旨集4-p82 2000.3

高津博勝, **緒方正裕**, **遠藤豊成**, 浦野四郎, ビタミン E とミズバショウ抽出物における抗酸化能の比較検討, ビタミン E 研究会, 要旨集 p 15, 1999 (岡山)

緒方正裕, **大友まさ恵**, 高津博勝, 浦野四郎, **遠藤豊成**, 生薬抽出物とビタミン E における抗酸化活性の比較検討, ビタミン E 研究会, 要旨集 p 16, 1999 (岡山)

緒方正裕, **堤本奏江**, **関昌子**, 平松啓一, **遠藤豊成**, フェノール性二量体の抗菌活性, 日本薬学会 (第120年会), 要旨集 2 p153, 1999 (岐阜)

星緑, **遠藤豊成**, Antibiotic K-41 の変換 (10), 日本薬学会 (第120年会), 要旨集 2 p154, 1999 (岐阜)

下遠野久美子, **遠藤豊成**, 和田牧子, 白幡晶, *Bacillus brevis* の Edeine の生合成研究: Spermidine 合成経路の関与, 日本薬学会 (第120年会), 要旨集 3 p106, 1999 (岐阜)

坂井尚子, **福島紀子**, **松本佳代子**. 外来患者のQOLとコンプライアンス. 第18回社会薬学研究会 (名古屋) 発表要旨P58, 1999.10

坂井尚子, **福島紀子**, **松本佳代子**. 医薬品の規制緩和に対する消費者の意識について. 第58回日本公衆衛生学会 (大分) 発表要旨P723, 1999.10

松本佳代子, **福島紀子**, 日高由里, 田平雅子. 医薬品販売のあり方. 第32回日本薬剤師会 (名古屋) 発表要旨P287, 1999.11

福島紀子, 松本佳代子, 佐藤雅男, 鈴木栄幸, 加藤浩. コンピュータを用いた保険薬局のための初等薬剤師教育. 第32回日本薬剤師会 (名古屋) 発表要旨P274, 1999.11

松本佳代子, 福島紀子. 経口避妊薬と情報. 日本薬学会第120年会 (岐阜) 発表要旨No4 P128, 2000.3

福島紀子. 社会薬学の活動と課題 日本薬学会第120年会 (岐阜) 発表要旨No1 P123, 2000.3

Fukushima N, Matsumoto K. A historical study of the selling drugs in Japan. 34rd International Congress for the History of Pharmacy (Florence) AbstractP164, 1999.10

Kanazawa H, Yoda R, Matsushima Y, Takai N, Kikuchi A, Okano T. Environmental stimuli-responsive chromatography with functional polymers modified packing materials. 23rd Internal Symposium on High Performance Liquid Phase Separations and Related Techniques, Granada, Spain, Abstract Vol. I, PA18/10, 1999.5.30.

Kanazawa H, Sunamoto T, Matsushima Y, Takai N, Kikuchi A, Okano T. Separation of amino acid phenylthiohydantoin by temperature-responsive chromatography. 23rd Internal Symposium on High Performance Liquid Phase Separations and Related Techniques, Granada, Spain, Abstracts Vol II, PB5/14, 1999.5.30.

Atsumi R, Kanazawa H, Matsushima Y, Kizu J. Determination of theophylline and its metabolites in biological samples using liquid chromatography/mass spectrometry. 23rd Internal Symposium on High Performance Liquid Phase Separations and Related Techniques, Granada, Spain, Abstract Vol. II, PB12/4, 1999.5.30.

Kunito Y, Kanazawa H, Matsushima Y, Okubo S, Mashige F. Stereospecific analysis of lorazepam in plasma by chiral chromatography-circular dichroism based detector. 23rd Internal Symposium on High Performance Liquid Phase Separations and Related Techniques, Granada, Spain, Abstract Vol. II, PB6/14, 1999.5.30.

Ikota N, Nakagawa H, Ozawa T, Chinda N, Yamamoto H, Fujita S, Furukawa K, Matsushima Y. Scavenging ability of wine catechin derivatives and curcumin against SO₃ and peroxyxynitrite. 2nd International Conference on Food Factors, Kyoto. 1999.12.

Anzai K, Furukawa Y, Matsushima Y, Ozawa T. Permeability of Liquid Bilayers to a Spin Trap, DMPO. OCC 2000, Santa Barbara California USA. 2000.3.1-4

山本一夫, 金澤秀子, 松島美一, 菊池明彦, 岡野光夫. 温度応答性クロマトグラフィーによるビスフェノールAの分析. Separation Science '99, 東京. (発表要旨集 p47) 1999.6.10

勝野隆司, 金澤秀子, 松島美一, 高井信治, 菊池明彦, 岡野光夫. 環境応答性高分子を用いたHPLC充填剤. Separation Science '99, 東京. (発表要旨集 p139) 1999.6.10

國東祐子, 金澤秀子, 松島美一. 円二色性検出器を用いた生体試料中の光学異性体医薬品の分離定量. 第13回生体成分の分析化学シンポジウム, 東京. (講演要旨集p.65), 1999.8.19.

渥美僚子, 金澤秀子, 松島美一. LC/MSによる生体試料中の医薬品およびその代謝物の同時分離定量. 第13回生体成分の分析化学シンポジウム, 東京. (講演要旨集p.63), 1999.8.19

金澤秀子, 松島美一. (招待) 機能性ポリマーを用いた環境にやさしい分離素材の開発. 第3回分析化学東京シンポジウム, 幕張, 千葉, (講演要旨集p.212) 1999.9.1

渥美僚子, 金澤秀子, 松島美一, 木津純子. カラムスイッチングLC/MSによる生体試料中の薬物および代謝物の分析. 日本分析化学会第48年会, 神戸, (発表要旨集 p186) 1999.9.8

國東祐子, 金澤秀子, 松島美一, 大久保滋夫, 真重文子. 円二色性検出器を用いた生体試料中のロラゼパムの分離. 日本分析化学会第48年会, 神戸, (発表要旨集 p186) 1999.9.8

金澤秀子, 山本一夫, 松島美一, 菊池明彦, 岡野光夫. 温度応答性クロマトグラフィーによる環境ホルモンの分析. 日本分析化学会第48年会, 神戸, (発表要旨集 p275) 1999.9.8

勝野隆司, 金澤秀子, 松島美一, 高井信治, 菊池明彦, 岡野光夫. 環境応答性高分子を用いたHPLC充填剤の開発. 日本分析化学会第48年会, 神戸, (発表要旨集 p85) 1999.9.8.

金澤秀子. (招待講演)機能性高分子を用いた環境にやさしいクロマトグラフィーの開発. 第30回中部化学関係学協会支部連合秋季大会, 津市, 三重大学(発表要旨集 p28)1999.10.3.

金澤秀子. (特別講演) 機能性高分子を用いた温度応答性クロマトグラフィーの開発と応用. イオンクロマトグラフィー討論会, 東京, (発表要旨集 p36)1999.11.19

國東祐子, 津林茜, 金澤秀子, 松島美一. 光学活性検出器を用いたHPLCによる生体試料中の医薬品の分離定量. 第15回ライフサポート学会大会, 神奈川, (発表要旨集 p123) 1999.10.8.

千葉健一, 金澤秀子, 松島美一, 高井信治, 菊池明彦, 岡野光夫. 温度応答性クロマトグラフィーによるフェノール類の分析. 第15回ライフサポート学会大会. 神奈川, (発表要旨集 p110) 1999.10.8.

渥美僚子, 長門千絵, 金澤秀子, 松島美一. LC/MSによる生体試料中の薬物および代謝物の同時分析. 第15回ライフサポート学会大会. 神奈川, (発表要旨集 p112) 1999.10.8.

西尾たまも, 永田佳子, 松島美一. ビタミンEモデル化合物とNOのO₂共存下での反応. 第15回ライフサポート学会大会. 神奈川, (発表要旨集 p111) 1999.10.8.

勝野隆司, 金澤秀子, 松島美一, 高井信治, 菊池明彦, 岡野光夫. 機能性高分子を用いたpH/温度応答性充填剤の開発. 第15回ライフサポート学会大会. 神奈川, (発表要旨集 p113) 1999.10.8.

西尾たまも, 永田佳子, 松島美一. α -Tocopherol及びそのモデル化合物と2,2,5,7,8-pentamethyl-6-chromanolのNOとの反応における共存酸素量の影響. 第11回ビタミンE研究会, 岡山, (発表要旨集 p1) 2000.1.28

竹下啓蔵, Olea-Azar C.A, 水野路子, **松島美一**, 小沢俊彦. NADPH存在下ウロポルフィリン光増感反応における一重項酸素依存的ヒドロキシラジカルの生成. 日本薬学会 第120年会, 岐阜, (発表要旨集3-p131)2000.3.29

金澤秀子, 渥美僚子, 松島美一, 木津純子. LC/MSを用いた抗てんかん薬の同時分析. 日本薬学会第120年会, 岐阜, (発表要旨集3-p93) 2000.3.29

金澤秀子, 千葉健一, 勝野隆司, 松島美一, 菊池明彦, 岡野光夫. 機能性高分子を用いた環境応答性クロマトグラフィー. 日本薬学会第120年会, 岐阜, (発表要旨集3-p91)2000.3.29

中川秀彦, **古川公美子**, 伊古田暢夫, 田草川光子, 小沢俊彦, **松島美一.** シトクロムcのパーオキシナイトライトによる修飾と酸化への応用. 日本薬学会第120年会, 岐阜, (発表要旨集 3-p130) 2000.3.29

上田順市, **土屋悠紀, 松島美一,** 小沢俊彦. 酸化型ラクトペルオキシダーゼと生体内還元剤の反応からのラジカル生成の及ぼすフェノール化合物の効果, 日本薬学会第120年会, 岐阜, (発表要旨集 3-p130)2000.3.29

野村佳子, 藤本善徳, **中村敦子, 大林香澄, 山田純子, 高橋恭子, 森崎益雄.** Ajuga毛状根におけるcyasterone類の生合成研究: ステロール前駆体の同定. 日本化学会第78春季年会, 千葉, (講演予稿集 II, p842) 2000.3.

那須こず恵, 高橋恭子, 森崎益雄, 藤本善徳. 植物ステロール側鎖部の生合成機構: ($\Delta^{24(28)} \rightarrow \Delta^{24(25)}$)異性化反応における26-及び27-methyl基の挙動. 日本薬学会第120年会, 岐阜, (講演要旨集2, p119) 2000.3

高橋恭子, 森崎益雄, 加地祐子, 藤本善徳. 14β (H)-ステロイドの合成研究. 日本薬学会第120年会, 岐阜, (講演要旨集2, p119) 2000.3

Shibasaki T, Ohno I, Ishimoto F. Safety and efficacy of cyclosporin A in patient with primary nephrotic syndrome International Society of Nephrology, Buenos Aires

柴崎敏昭. 腎糸球体疾患における脂質代謝異常の治療 第32回日本薬剤師学術大会ランチョンセミナー

Matsunaga N, Hattori K, Iizasa H, and Nakashima E. Establishment of Drug Metabolism Ability Diagnosis: the Application to Clearance Prediction for Acetanilide Based on in vivo CYP1A2 Level. Strategies for Optimizing Oral Drug Delivery (ODD), Kobe, April, (Abstracts p188)

Nakashima E, Hattori K, Matsunaga N, and Iizasa H. Establishment of Drug Metabolism Ability Diagnosis: Examination of Measuring Method According to in vivo CYP Molecular Species. 59th International Pharmaceutical Federation, Barcelona, September, (Abstracts p 52)

Matsunaga N, Hattori K, Nishijima T, Iizasa H, Fukuhara M, Nakashima E. Application ofPKCYP-test to Drug -drug interaction for Caffeine and Theophylline. International Conference on Drug Interaction, Hamamatsu, October, (Abstracts p68)

Matsushita R, Kubota A, Iwashita S, Ishizaki J, Yokogawa K, **Nakashima E**, Terasaki T, Ichimura F. Kinetic Analysis of the Interaction between Valproic Acid and Meropenem in Rabbits. International Conference on Drug Interaction, Hamamatsu, October, (Abstracts p73)

中島恵美. 薬の上手な使い方. 第25回日本医学会総会, 東京, 4月 (講演要旨集p602)

中島恵美. 今, 求められる薬剤師とは? 第25回日本医学会総会, 東京, 4月 (講演要旨集p220)

中島恵美. 剤形の形の意味. 第3回創薬における医薬品情報, 東京, 1月

Kurihara Y, Shiba K, Kamei S, **Iijima S, Kimura M**, Sakai N, Hosaki S. Molar heterogeneity of urinary transferrin in the patients with diabetic nephropathy. Meeting of the International Council of Electrophoresis '99, Tokyo, Japan Abstract p109, 1999. 5

Sakai N, Shiba K, Hosaki S, Kawai M, **Iijima S**, Hiratsuka N. Changes of urinary proteins of the patients after operation. 17th International and 13th European Congress of Clinical Chemistry and Laboratory Medicine, Firenze, Italy Abstract pS517, 1999. 6

Hiratsuka N, Shinomura K, **Iijima S, Kimura M**, Shiba K, Hosaki S. Changes in electrophoretic patterns of urinary proteins of the patients after operation. 17th International and 13th European Congress of Clinical Chemistry and Laboratory Medicine, Firenze, Italy Abstract pS527, 1999. 6

Tamura H, Sato T, Matsui M. Characterization of phenol sulfotransferases in the mouse intestine and human intestinal Caco-2 cells. 7th European ISSX Meeting, Budapest, Hungary ISSX Proceedings 14, 37. 1999.8

谷口和紀, 林恵理子, 日吉泰子, 佐藤智子, 田村悦臣. ヒト培養細胞における硫酸転移酵素の発現. 日本薬学会第120年会, 岐阜, (要旨集4) p9, 2000.3

黒田恵理香, 島田江梨子, 田村悦臣, 竹田忠紘, 本多利雄. 天然物由来色素によるマウス小腸フェノール硫酸転移酵素の阻害. 日本薬学会第120年会, 岐阜, (要旨集2) p76, 2000.3

佐藤智子, 田村容子, 田村悦臣. ヒト結腸癌由来Caco-2細胞の硫酸転移酵素の解析. 日本薬学会第120年会, 岐阜, (要旨集3) p120, 2000.3

高橋美恵, 薄井富美子, 田村悦臣. ラット脳のデヒドロエピアンドロステロン硫酸転移酵素の解析. 日本薬学会第120年会, 岐阜, (要旨集3) p121, 2000.3

Suzuki JS, Nishimura N, Zhang B, **Kobayashi S**, Satoh M, Tohyama C. Anticarcinogenic role of metallothionein in the DMBA/TPA-caused skin carcinogenesis, The 39th Annual Meeting of the Society of Toxicology (Pennsylvania), Abstract p 206, 2000, 19-23

浅見優子, 岡 美佳子, 竹鼻 眞, 小林静子. SCR系ラットの水晶体中のMIP26Kの変動. 第38回日本白内障学会, 京都, 1999年7月16日 (発表要旨集 p49)

松倉修司, 坂東正康, 尾羽澤 大, **岡 美佳子, 竹鼻 眞.** 各種動物水晶体の膜結合性ジアフォラーゼ活性. 第38回日本白内障学会, 京都, 1999年7月16日 (発表要旨集 p50)

中村花野子, 富塚江利子, 竹鼻 眞, 小林静子. 紫外線B波 (UVB) 照射による heat shock protein 27 (HSP27) のリン酸化と分子シャペロン機能. 第21回日本光医学・光生物学学会, 1999年8月6日 (発表要旨集 p36)

小林静子, 中山悟美, 竹鼻 眞, 松島美一, 高田二郎, 加留部善晴. 皮膚のUVB照射障害に対する α -トコフェロールジメチルグリシンエステルの効果. 第21回日本光医学・光生物学学会, 1999年8月6日 (発表要旨集 p50)

岡 美佳子, 竹鼻 眞, 小林静子. 水晶体中のタンパク質分解酵素. 第72回日本生化学会, 横浜, 1999年10月7日 (発表要旨集 p729)

浅見優子, 岡 美佳子, 竹鼻 眞, 小林静子. 遺伝性白内障ラット (SCR系) の水晶体中MIP26Kの変動. 第72回日本生化学会, 横浜, 1999年10月7日 (発表要旨集 p780)

富塚江利子, 中村花野子, 榎本 純, 吉越亜紀, 竹鼻 眞, 小林静子. 酸化ストレスによるHSP27のリン酸化とその機能—シャペロン効果とアポトーシス制御—. 第72回日本生化学会, 横浜, 1999年10月7日 (発表要旨集 p969)

中村洋子, 清水佳代子, 岡 美佳子, 竹鼻 眞, 小林静子. 水晶体上皮細胞の分化過程におけるMIP26Kの出現. 第72回日本生化学会, 横浜, 1999年10月9日 (発表要旨集 p1033)

浅見優子, 岡 美佳子, 竹鼻 眞, 小林静子. SCR系ラットの水晶体中MIP26Kの変動. 第26回水晶体研究会, 箱根, 2000年1月13日 (発表要旨集 p23)

岡 美佳子, 竹鼻 眞, 小林静子. 水晶体中のタンパク質分解酵素の検出. 第26回水晶体研究会, 箱根, 2000年1月13日 (発表要旨集 p26)

坂東正康, 松倉修司, 尾羽澤 大, 岡 美佳子, 竹鼻 眞. 水晶体アスコルビン酸フリーラジカル還元酵素のジアフォラーゼ活性の役割. 第26回水晶体研究会, 箱根, 2000年1月13日 (発表要旨集 p36)

中村洋子, 岡 美佳子, 竹鼻 眞, 小林静子. MIP26K過剰発現細胞の作成. 第26回水晶体研究会, 箱根, 2000年1月13日 (発表要旨集 p41)

松本行弘, 竹鼻 眞, 橋本浩隆, 筑田 眞, 小原喜隆. 白内障水晶体における混濁部位別ペントシジンの定量. 第26回水晶体研究会, 箱根, 2000年1月13日 (発表要旨集 p48)

中山悟美, 小林静子, 竹鼻 眞, 松島美一, 高田二郎, 加留部善晴. 皮膚障害に対するビタミンEプロドラッグの投与効果. 日本薬学会第120年会, 岐阜, 2000年3月29日 (発表要旨集4 p150)

正辻詠子, 続木 敏, 伊東 忍, 小方英二, **小林静子**. 紫外線B波照射により皮膚内で発生するラジカルのアスコルビン酸リン酸エステルによる捕捉. 日本薬学会第120年会, 岐阜, 2000年3月29日 (発表要旨集4 p150)

松井幸子, 安達玲子, **永石恵子**, 山口照英, **笠原 忠**, 早川堯夫, 鈴木和博. 白血球の活性化時におけるコフィリンの動的変化と蛋白質リン酸化酵素の関与. 第20回日本炎症学会, 1999. 6

松本弥恵子, **渡部史朗**, **横田恵理子**, **園田よし子**, **笠原 忠**. ヒト骨髄性白血病細胞株HL-60におけるfocal adhesion kinase (FAK) の過剰発現はアポトーシスを抑制する 第72回日本生化学会, 横浜, (発表要旨集p822) 1999. 10

船越めぐみ, 多胡憲治, 富永真一, **園田よし子**, **笠原 忠**. IL-1刺激によるヒトグリオーマ細胞株T98GでのIL-8産生誘導におけるTRAF6の関与について 第72回日本生化学会, 横浜, (発表要旨集p1073) 1999. 10

横田恵理子, **日下部晃子**, **山田裕実**, **園田よし子**, 岸 賢治, **笠原 忠**. 好酸球分化の指標としてのeosinophil peroxidase およびケモカインレセプターCCR3の発現とその制御 第72回日本生化学会, 横浜, (発表要旨集p1077) 1999. 10

日下部晃子, **横田恵理子**, **小田泰子**, **園田よし子**, **笠原 忠**. 正常ヒト肺繊維芽細胞におけるエオタキシン産生機序 第29回日本免疫学会総会, 京都, (発表要旨集p288) 1999. 12

船越めぐみ, **幕田陽子**, **園田よし子**, **横田恵理子**, **笠原 忠**. IL-10はマクロファージ様に分化したHL-60においてSTAT3およびMAPK 介しCCR5発現を誘導する 第29回日本免疫学会総会, 京都, (発表要旨集p288) 1999. 12

松井幸子, 安達玲子, 楠井 薫, 山口照英, 早川堯夫, **笠原 忠**, 鈴木和博. マクロファージ様U937細胞の活性化におけるコフィリンの動態とリン酸化酵素の関わりについて 第29回日本免疫学会総会, 京都, (発表要旨集p311) 1999. 12

多胡憲治, 柳沢 健, 岩花弘之, 黒岩憲二, 李紅杰, **船越めぐみ**, **笠原 忠**, 富永真一. IL-1 α 依存的なNF- κ B活性化に対するGenistein の増強効果 第29回日本分子生物学会, 福岡, 1999. 12

山本大輔, 山田裕実, 松本弥恵子, 横田恵理子, 園田よし子, 笠原 忠. HL-60細胞株でのfocal adhesion kinase (FAK) 過剰発現による抗アポトーシス作用の解析, NF-kBおよびinhibitor of apoptosis protein (IAP) のU導 第120回日本薬学会, 岐阜, (発表要旨集 3 p67) 2000. 3

小田泰子, 小山田佳代, 桜井博子, 関真依子, 滝沢吉恵, 笠原 忠. アルプラゾラムの NF-kB の活性化抑制作用 第120回日本薬学会, 岐阜, (発表要旨集 3 p8) 2000. 3

Funakoshi M, Ueno M, Sonoda Y, Mukaida N, Kasahara T. KB-3 site of the JE/MCP-1 gene is essential for the LPS stimulation. Differential induction of JE/MCP-1 in sublines from murine macrophage cell line, Raw264.7. 第8回国際マクロファージ分子細胞生物学シンポジウム, 東京, Abstract p48 1999. 6

Oda T, So Y, Sato Y, Shimizu N, Handa H, Kasahara T. Effect of (+)-, (-)- and (±)-indenstrol A on NO and TNF- α production by activated murine macrophage RAW cells. 第8回国際マクロファージ分子細胞生物学シンポジウム, 東京, Abstract p58 1999. 6

Kasahara T, Makuta Y, Funakoshi M, Aizu-Yokota E, Sonoda Y. IL-10 increases CCR5 expression in differentiated HL-60 cells through activation of MAPK and STATs. 1st Intl' Congr. Cytokines and Chemokines Infect. Diseases, Bethesda, MD, U.S.A. 1999. 9